答え 7月15日 今日は何の日クイズ

赤い字が答えです



中元にちなんで「お中元クイズ」

【第1問】お中元の時期を過ぎ、立秋より前に贈るときの表書きは？

① 暑中御見舞　② 残暑御見舞　③ 御歳暮

お中元の時期を過ぎたら「暑中御見舞」、目上の方には「暑中御伺」とします。お中元の時期は地方によってちがい、関東は7月前半、関西は8月中ごろまでが多いといわれます。

【第2問】では、立秋（8月8日ごろ）を過ぎてから贈るときは？

① 寒中見舞　② 暑中御見舞　③ 残暑御見舞

立秋を過ぎると、暦の上では秋です。暑さが続いていても「残暑御見舞」とします。はがきのあいさつも同じで、立秋を境に書き方が変わります。

【第3問】「中元」は、もともとどこの国の行事でしょう？

① インド　② 中国　③ アメリカ

中国では、1月15日を上元、7月15日を中元、10月15日を下元と呼びました。それが日本に伝わり、お盆の行事と結びつきました。

【第4問】お中元と並ぶ、年の暮れの贈りものは何でしょう？

① お年玉　② お歳暮　③ お年賀

お歳暮は、一年の終わりに「今年もお世話になりました」という気持ちを贈るものです。お中元は、一年の半ばのごあいさつです。

【第5問】7月15日の中元は、どんな行事と結びついて先祖をまつる日になった？

① 節分　② ひな祭り　③ お盆

仏教のお盆（盂蘭盆・うらぼん）と結びつき、ご先祖をまつる時期になりました。お盆に親せきへ品物を持っていく習わしが、お中元の贈りものになったといわれます。

【第6問】お中元ののし紙。水引の結び方は、どれがよいでしょう？

① 蝶結び（花結び）　② 結び切り　③ 結ばない

蝶結びは、何度でもほどいて結びなおせることから、何度あってもうれしいお祝いやお礼に使います。結び切りは、結婚やお見舞いなど、一度きりにしたいことに使います。

ねらい： 記念日の話題から、知っていることを思い出します。
声かけ： 『「今日は何の日？」から、話を広げてみましょう』
メモ： 答えのあと、うんちくを読み上げると話が広がります。

まいにち元気プリント道場
プリントのダウンロードはこちら →

まいにち元気道場 監修 作業療法士 石田竜生
© 株式会社おふとん　施設・教室・ご家庭で自由にコピーしてお使いいただけます